

港区

「地域包括ケア推進事業」

令和7年度報告

【掲載内容】

- | | |
|--|---------------------|
| 1 港区の地域包括ケアの推進について | 6 港区地域包括ケア研修会の実施報告 |
| 2 地域包括ケアを推進する会議の報告 | 7 福祉総合窓口 |
| 3 地域包括ケアを推進する連絡会の報告 | 8 重層的支援体制整備事業 |
| 4 港区在宅療養相談センターの運用 | 9 港区版ACPシートの作成・周知啓発 |
| 5 みなと在宅療養サポート入院(港区在宅療養後方
支援病床)の運用実績 | 10 普及啓発 |

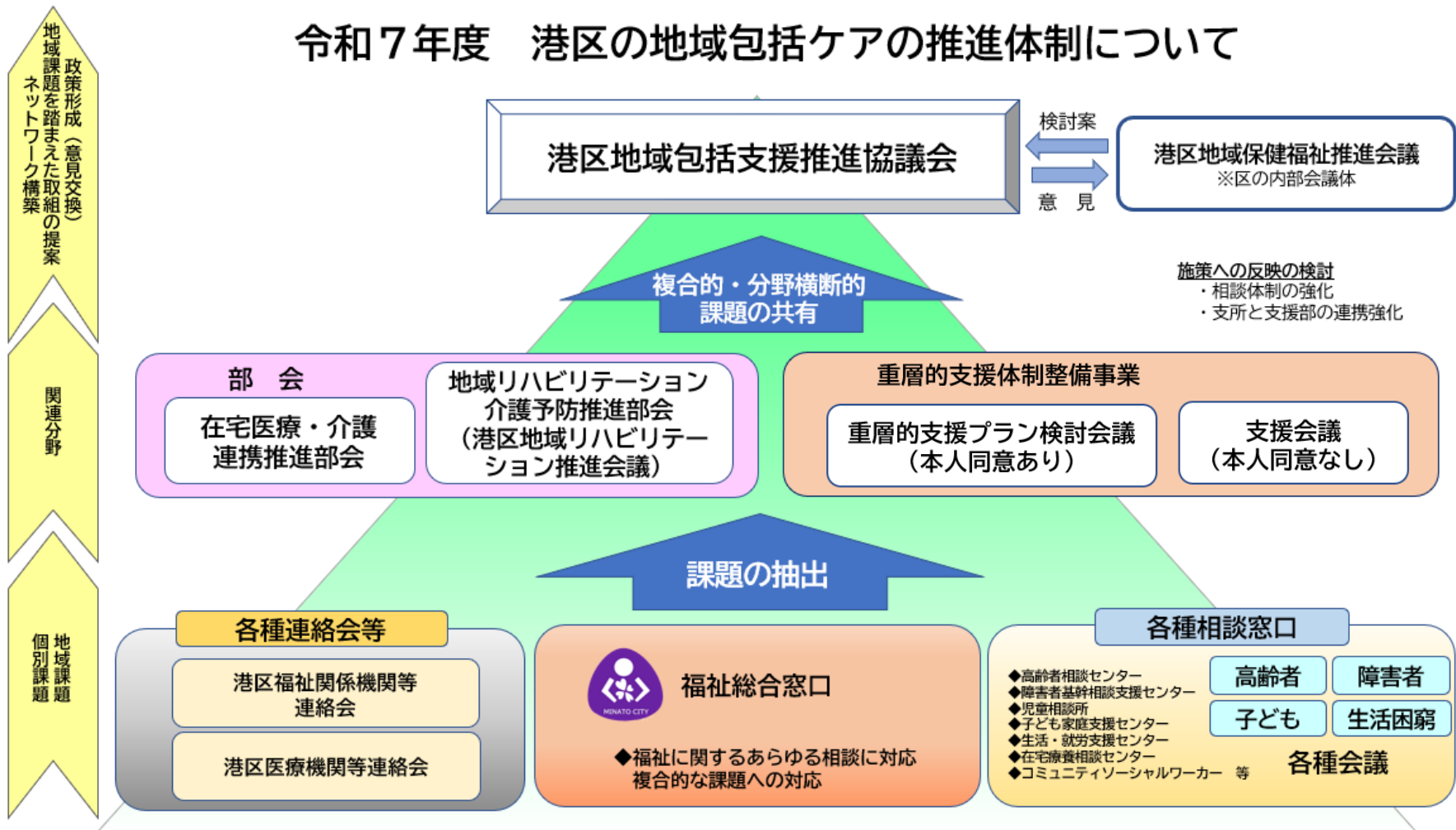
港区保健福祉支援部保健福祉課

1 港区の地域包括ケアの推進について

(1) 港区の地域包括ケアの推進体制

港区ならではの地域包括ケアの推進に関する事項や更なる多機関・多職種の連携を推進する協議のため、区では港区地域包括支援推進協議会設置要綱に基づき、各種会議を開催しました。

令和7年度 港区の地域包括ケアの推進体制について



(2) 地域保健福祉計画における項目と事業について

地域福祉分野

中項目	小項目	事業	主な内容
港区ならではの地域包括ケアの推進	(1) 地域包括ケアの推進体制の充実	①推進体制の強化	・港区地域包括支援推進協議会 ・在宅医療・介護連携推進部会 ・地域リハビリテーション・介護予防推進部会(地域リハビリテーション推進会議)
		②関係機関連携の推進による地域課題への対応	
	(2) 重層的支援体制整備事業の実施	①相談支援体制の充実	・福祉総合窓口 ・福祉関係機関等連絡会 ・重層的支援体制整備事業
		②アウトリーチを通じた継続的支援の充実	
		③地域社会への参加支援	
	(3) 医療と介護の連携の推進	①在宅療養推進体制の充実	・港区在宅療養相談センター ・みなと在宅療養サポート入院(港区在宅療養後方支援病床) ・港区医療機関等連絡会 ・在宅医療・介護連携推進部会
		②医療機関等との連携体制の強化	
		③情報共有による多職種連携の推進	
	(4) 効果的な情報発信	①区民等への啓発	・区民公開講座 ・港区医療機関・介護事業者検索システム ・港区地域包括ケア研修会 ・ACPシートの作成 ・ホームページ、デジタルサイネージ等の活用
		②支援者間における情報の発信と共有	
		③各種媒体による情報発信	

健康づくり・保健分野

中項目	小項目	事業	主な内容
安心できる地域保健・地域医療体制の推進	(3) 支え合いによる地域保健活動の強化	①地域リハビリテーション体制の充実	地域リハビリテーション・介護予防推進部会(港区地域リハビリテーション推進会議)

2 地域包括ケアを推進する会議の報告

地域包括ケアの推進体制の充実

(1) 港区地域包括支援推進協議会

港区の地域包括ケアの推進に関連する事業の実施状況や検討状況、地域の抱える課題等について共有しました。

回数	開催日	議 題 等
第1回	令和7年7月23日 (参集)	1 令和6年度 港区の地域包括ケア推進事業の報告について 2 令和7年度 港区の地域包括ケアの推進について 3 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について 4 令和7年度あんしん未来・終活サポート事業の検討状況について
第2回	令和8年1月20日 (参集)	1 令和7年度 港区の地域包括ケア推進事業の報告について 2 あんしん生活サポート事業について(検討中)

港区地域包括支援推進協議会 委員名簿 令和7年度第2回開催時点(敬称略)

氏 名	職 名 等
河合 克義 ◎	明治学院大学 名誉教授
坪田 淳 ○	東京都港区医師会 会長
岡崎 正史	東京都港区芝歯科医師会 会長
兼松 由美子	東京都港区麻布赤坂歯科医師会 副会長
北村 兼一	東京都港区薬剤師会 会長
関根 和彦	東京都済生会中央病院
嶋津 多恵子	国際医療福祉大学大学院 教授
高木 信之	港区介護事業者連絡協議会 事務局長
長谷川 浩義	港区社会福祉協議会 事務局長
田中 泉	港区民生委員・児童委員協議会 会長
清原 元輔	港区町会・自治会連合会 会長
荒川 正行	保健福祉支援部長
笠松 恒司	みなと保健所長

◎会長 ○副会長

(2) 在宅医療・介護連携推進部会 ※港区地域包括支援推進協議会の下部組織

港区の在宅医療及び介護に関する連携の推進のため、各団体等の情報共有やガイドブックの内容の検討等を行いました。

回数	開催日	議 題
第1回	令和7年9月5日 (参集)	1 令和7年度の取組について (1) 在宅医療・介護の連携に関する調査の実施について (2) 区におけるACPに関する取組みについて (3) 支援者のための関係機関連携ガイドブックの改訂について 2 令和6年度 地域包括ケア推進事業の報告
第2回	令和8年3月13日 (参集・オンライン併用)	1 在宅医療・介護の連携に関する調査の結果について 2 令和7年度 地域包括ケア推進事業の報告 3 令和7年度東京都在宅療養推進研修の報告について 4 その他

港区地域包括支援推進協議会 在宅医療・介護連携推進部会員名簿 令和7年度第2回開催時点（敬称略）

氏名	職 名 等
安田 淳 ◎	東京都港区医師会 常務理事
菰池 信彦	東京都港区医師会 担当理事
華岡 眞幸	東京都港区芝歯科医師会 副会長
兼松 由美子	東京都港区麻布赤坂歯科医師会 副会長
青木 美子	東京都港区薬剤師会 副会長
福田 恵子	地域医療機能推進機構 東京高輪病院 医療連携・患者支援センター 社会福祉士
平松 シゲ子	医療法人財団厚生会 古川橋病院 看護部長
前田盛 貢	港区介護事業者連絡協議会 居宅介護支援部会長
小宮山 由香	港区介護事業者連絡協議会 訪問看護部会長
南塚 恵	港区立がん在宅緩和ケア支援センター 施設長
海江田 太司	芝浦港南地区高齢者相談センター（地域包括支援センター港南の郷） 管理者
長谷川 浩義	港区社会福祉協議会 事務局長

◎部会長

(3) 地域リハビリテーション・介護予防推進部会

※港区地域包括支援推進協議会の下部組織
 ※事務局：港区みなと保健所 地域医療連携担当

地域リハビリテーション及び介護予防に関する取組の情報共有や関係団体等との連携の推進について検討しました。また、区中央部リハビリテーション支援センター（東京慈恵会医科大学附属病院）と連携し、区民公開講座を実施しました。

	開催日	内容・議題
区民公開講座	①令和8年1月8日 ②令和8年1月21日	① 講演「退院後から始める生活リハビリ 地域リハビリの可能性」 ② 講演「生涯美しく歩くために 骨と姿勢と運動習慣の話 一生モノの健康習慣」 ▶講師 安保雅博先生（東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科 主任教授 診療部長）
部会	令和8年2月12日 （オンライン会議）	1 「回復期リハビリテーション病院連携調整アンケート」の調査報告および令和8年度アンケート内容の協議 2 区民公開講座の実施報告及び来年度区民講座内容の協議 3 区からの情報提供 4 令和7年度区中央部地域リハビリテーション支援センターの活動報告

港区地域包括ケア推進会議 地域リハビリテーション・介護予防推進部会員名簿 令和7年度開催時点（敬称略）

氏名	職 名 等
安保 雅博 ◎	東京慈恵会医科大学附属病院 副院長、リハビリテーション科 診療部長
腰塚 裕 ○	アットホーム表参道クリニック 整形外科・リハビリテーション科院長
西山 誠	六本木にしやま整形外科 整形外科院長
白土 貴史	地域医療機能推進機構 東京高輪病院 副院長 リハビリセンター長
佐藤 志穂子 ○	麻布地区高齢者相談センター（南麻布地域包括支援センター） 社会福祉士
小宮山 由香	88ホームメディカルケア株式会社 訪問看護部会 会長（看護師）
江成 務	介護予防総合センター センター長
大石 真由美	アステイジ株式会社 居宅介護支援部会（介護支援専門員）

◎会長 ○副会長

3 地域包括ケアを推進する連絡会の報告

(1) 港区福祉関係機関等連絡会

福祉関係機関同士での意見交換や情報共有を行い、福祉総合窓口の円滑な運営、地域課題への対応強化及び地域資源の把握・活用をするため、福祉に関する各分野の相談を実施している関係者が集まり、港区福祉関係機関等連絡会を開催しました。

第1回	日時	令和7年7月22日（火）15時～17時
	会場	麻布区民協働スペース
	参加者	43人(各地区高齢者相談センター、各地区ふれあい相談室、障害保健福祉センター、精神障害者支援センター、障害者支援ホーム南麻布、児童発達支援センター、新橋はつらつ太陽、発達障害者支援相談室、がん在宅緩和ケア支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談センター、港区社会福祉協議会、各地区区民課保健福祉係・生活福祉係、高齢者支援課、障害者福祉課、子ども家庭支援センター、児童相談所、みなと保健所健康推進課、生活福祉調整課、消費者センター)
	議題	1 開会のあいさつ 2 参加者紹介 3 子ども家庭支援センターの業務について 4 港区重層的支援体制整備事業等について 5 事例検討（グループワーク） 6 その他
	内容	各関係機関の業務を知る機会として、子ども家庭支援センターから業務説明を行いました。また、事務局から重層的支援体制整備事業についての説明を行い、その後、重層的支援体制整備事業の活用について、事例を用いてグループごとに事例検討・意見交換を実施しました。

第1回港区福祉関係機関等連絡会の様子



第2回	日時	令和7年11月14日（金）15時～17時
	会場	麻布区民協働スペース
	参加者	39人（各地区高齢者相談センター、各地区ふれあい相談室、障害保健福祉センター、精神障害者支援センター、障害者支援ホーム南麻布、児童発達支援センター、新橋はつらつ太陽、発達障害者支援相談室、がん在宅緩和ケア支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談センター、港区社会福祉協議会、各地区区民課保健福祉係・生活福祉係、高齢者支援課、障害者福祉課、子ども家庭支援センター、児童相談所、みなと保健所健康推進課、生活福祉調整課、消費者センター）
	議題	1 開会のあいさつ 2 参加者紹介 3 あんしん未来・終活サポート事業について 4 ひきこもり支援講演会について 5 港区生活・就労支援センターの業務について 6 グループワーク 7 港区重層的支援体制整備事業について 8 その他
	内容	各関係機関の業務を知る機会として、港区生活・就労支援センターから業務説明を行いました。また、世帯で複合的な課題を抱えている事例を用い、それぞれの機関で果たすことができる役割や援助の方針、支援方法等について、各グループでの意見交換を実施しました。その後、重層的支援体制整備事業の説明を事務局から行いました。
	主な意見	・各支援者が制度を理解し提案できる知識をつけ、チームで見えていくことが重要である。 ・支援対象世帯についての困難な状況の片鱗が見えた段階で、関係者に情報共有をすることが大事であり、そのための関係づくりをしていくことが必要である。

第2回港区福祉関係機関等連絡会の様子



(2) 港区医療機関等連絡会

港区ならではの地域包括ケアの推進のため、医療機関と在宅療養等に関する情報共有などの連携強化を図り、ケース対応等におけるネットワークの構築を目的として、港区医療機関等連絡会を開催しました。

第1回	日時	令和7年9月30日（火）14時～15時
	会場	オンライン開催
	参加者	22人(区内9病院のソーシャルワーカーまたは看護師、港区社会福祉協議会、港区在宅療養相談センター、事務局)
	議題	1 あんしん未来・終活サポート事業について 2 医療機関入退院の流れと留意点について 3 在宅医療・介護の連携に関する調査の実施について 4 ひきこもり支援事業について 5 在宅療養相談センターリーフレットについて 6 その他
	内容	あんしん未来・終活サポート事業の事業内容の確認や、今後の医療機関入退院の流れと留意点の作成方法について意見交換した。また、区が実施する調査や、ひきこもり支援に関する取組について情報共有した。
	主な意見	・「入院時サポート事業」については、今後も病院側と港区社会福祉協議会間の連携を深めていきたい。 ・90年代終わり頃に「社会的ひきこもり」という概念が広がったことで、若者だけのひきこもりから中高年のひきこもりへと認識が広がっていったかと思われる。「ひきこもり支援事業」における相談も多岐にわたることが想定されるため、相談窓口と連携をしていきたい。

第2回	日時	令和8年2月4日（水）15時～16時
	会場	オンライン開催
	参加者	20人（区内10病院のソーシャルワーカーまたは看護師、港区社会福祉協議会、みなと保健所健康推進課、港区在宅療養相談センター、事務局）
	議題	1 入院時サポート事業について 2 あんしん生活サポート事業について 3 ACPに関する取組について 4 港区自殺未遂者対応支援事業（港区いのちのサポート相談）の活用について 5 その他
	内容	入院時サポート事業・ACPに関する取組の事業報告や、あんしん生活サポート事業について意見交換した。また、港区自殺未遂者対応支援事業について情報共有をした。
	主な意見	・あんしん生活サポート事業が始動する前に、連携に向け今後も情報共有をしていきたい。 ・ACPシートのリビング・ウィル（事前指示書）リード文を、今後改訂等する機会があれば「リビング・ウィルは回復の見込みがない場合の延命処置に関する希望」と強調してほしい。 ・港区自殺未遂者対応支援事業について、今後関わってくるとされるため引続き情報共有をしてほしい。

4 港区在宅療養相談センターの運用

医療と介護の連携の推進

港区在宅療養相談センターは、医療機関及び福祉関係機関への訪問等により連携を一層進め、退院から在宅へ切り替わる際の相談対応や在宅療養に関する情報共有等、相談の機能強化を図りました。

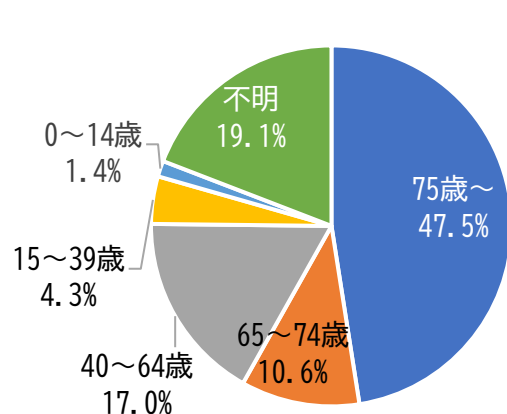


(1) 相談実績（令和7年度）

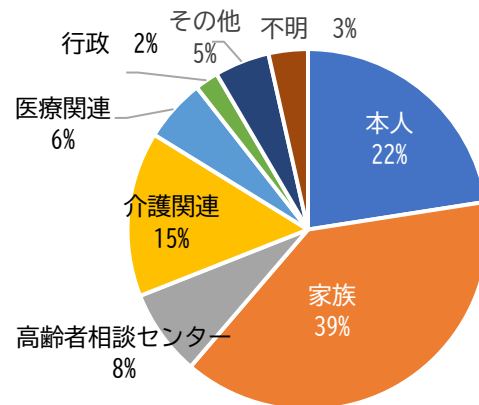
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者数	10	18	7	9	14	11	11	11	10	13	13	14	141

1か月あたりの対象者数	令和7年度 約11人	令和6年度 約12人	令和5年度 約14人	令和4年度 約24人
-------------	------------	------------	------------	------------

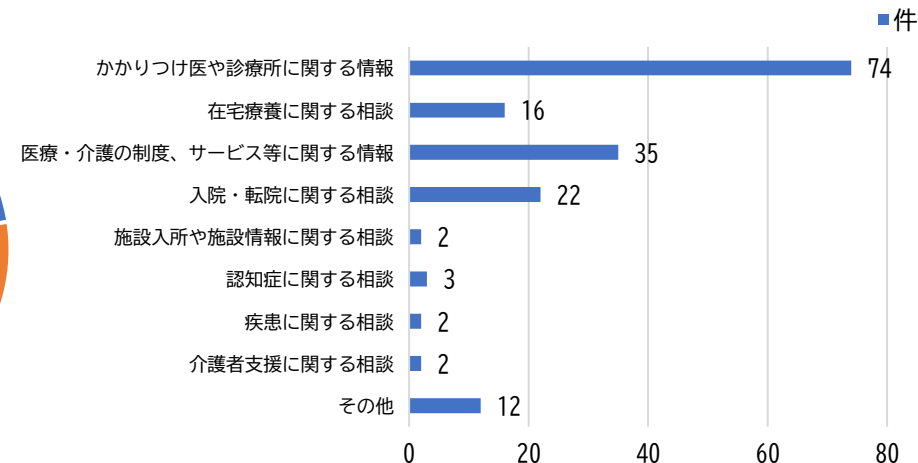
対象者の年齢



相談者の内訳(相談者n=142)



相談・問合せ内容（複数計上あり）



5 みなと在宅療養サポート入院(港区在宅療養後方支援病床)の運用実績

医療と介護の連携の推進

区内2病院(東京高輪病院、古川橋病院)と協定を締結し、一時的な入院が必要な区民が、速やかに入院することができる病床を確保することを目的とし、運用しています。

(1) 入院目的

	介護者不在 計画的	介護者不在 緊急的	介護困難 計画的	介護困難 緊急的	対象者の 加療目的	対象者の リハビリ目的	合 計
人数	18人	9人	42人	18人	118人	3人	208人

過年度年間人数	令和6年度	令和5年度	令和4年度
	163人	166人	162人

(2) 利用者の年齢区分

	64歳以下	65歳～74歳	75歳以上	合 計
人数	14人	12人	182人	208人

(3) 港区在宅療養後方支援病床の運用に関する連絡会

6月と12月に連絡会を開催し、在宅療養後方支援病床の利用方法や運営状況等について、区、2病院、港区在宅療養相談センターで情報を共有しています。

また、後方支援病床の更なる利用促進のため、区民向けのチラシの発行に向けて、連絡会を活用し意見交換をしました。

令和8年2月に新たに区民向けチラシを発行しました。



6 地域包括ケア研修会の実施報告

効果的な情報発信

港区医師会を中心に、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、各回の担当病院にご協力いただき開催しました。

	第1回	第2回	第3回
日時	令和7年7月18日（金） 19時15分～21時00分 （オンライン開催）	令和7年10月24日（金） 19時15分～20時30分 （オンライン開催）	令和8年2月18日（水） 19時15分～20時30分 （オンライン開催）
参加数	191人	97人	81名
担当病院	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都済生会中央病院	北里大学北里研究所病院
テーマ	その支援は正しいですか？～境界を越える瞬間の“現場のモヤモヤ” ～制度の“すきま”を前に、医療・介護職が知っておくべき社会とお金の仕組み～	地域包括ケアにおける摂食・嚥下・栄養の在宅での管理	在宅療養患者における便秘症について ～正しい知識で快便への第一歩を目指そう～
講師	講演 「どうすればよかったの？～意思決定支援での支援者の葛藤～」 東京慈恵会医科大学附属病院 患者支援・医療連携センター 医療ソーシャルワーカー 駒村 穂乃香 特別講演「地域における身寄りのない高齢者の対応について」 弁護士・武蔵野大学人間科学部客員教授 港区成年後見制度利用促進協議会副会長 八杖 友一	講演1 「アップデートしよう！摂食嚥下の見直しポイント」 東京都済生会中央病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 古舘 加菜子 講演2 「知っておきたい！嚥下に配慮した食材・調理法」 東京都済生会中央病院 管理栄養士 山田 愛梨・高橋 麻友	講演1「便秘症診療Up-To-Date」 北里大学北里研究所病院 内視鏡センター副センター長 阿曾沼 邦央 講演2「快便を作る日常生活の具体的なポイント！」 コンチネンスジャパン株式会社 専務取締役（北里大学北里研究所病院 非常勤看護師）西村かおる
共催	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京慈恵会医科大学附属病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京都済生会中央病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、北里大学北里研究所病院

7 福祉総合窓口について(相談・申請手続きの対応件数)

令和4年8月に各地区総合支所に設置した福祉総合窓口では、高齢者相談センターや障害者基幹相談支援センター等とのスムーズで迅速な連携により、分野を問わず福祉の相談に対応しています。

令和7年度は福祉関係機関等連絡会を2回開催し、生活・就労支援センターや子ども家庭支援センター等との連携を深めるとともに、福祉総合窓口の各分野で延べ71回の研修を開催し、人材育成にも努めました。

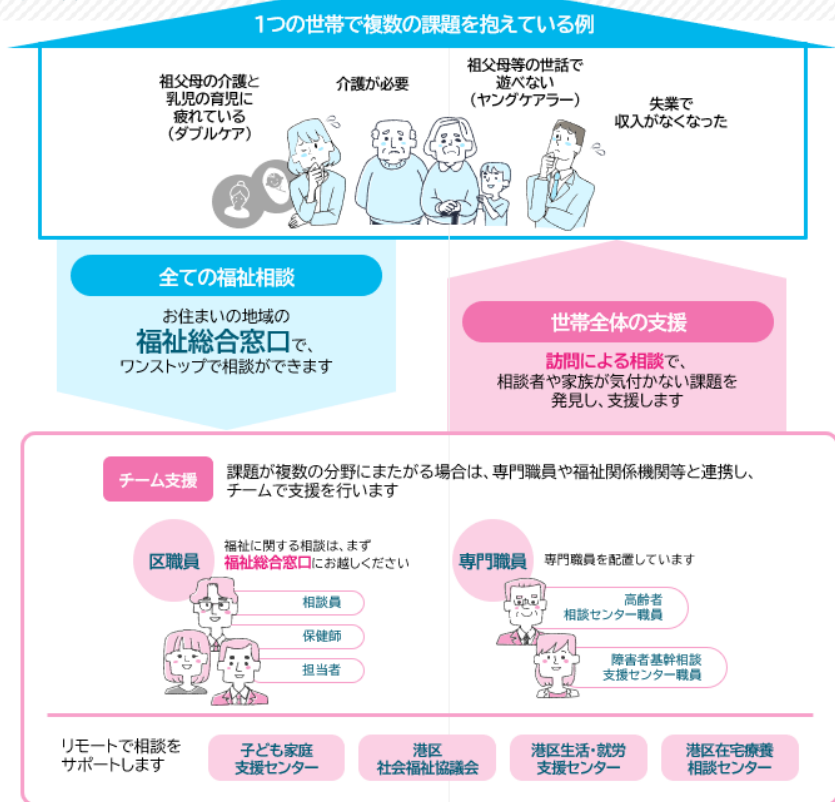


【分野別相談対応件数】

分 野	令和7年度 相談対応数 (暫定)	令和6年度 相談対応数
高 齢	10,912	9,454
身体障害	20,487	22,316
知的障害	1,325	1,594
保 健	12,421	11,783
生活福祉	1,085	1,236

出典：令和8年度（2026年度）版事業概要
（令和8年8月発行予定）

福祉総合窓口での 支援の流れ



(参考)福祉総合窓口における複合的課題への対応について

重層的支援体制整備事業の実施

福祉総合窓口の職員は、世帯全体の状況を共有し、適切な支援に迅速につなげるため、相談支援に係る記録を相談記録システムに入力しています。

【相談記録システム入力件数】

分 野	件 数
総 合（その他）	7
高 齢	1,296
障 害	650
保 健	9,413
生活福祉	309
合計（延べ件数）	11,675
入力実人数（単位：人）	2,811
うち、複合的課題への対応（単位：人）	63

【複合的課題の内訳】

分 野	人 数
障害×生活福祉	19
高齢×生活福祉	15
障害×保健	14
高齢×障害	11
高齢×保健	2
保健×生活福祉	1
高齢×障害×生活福祉	1
合 計	63

※集計期間は令和7年4月1日～令和8年3月31日。

※複合的課題への対応とは、複数分野にわたる相談記録を保持するケースの件数。

8 重層的支援体制整備事業について

重層的支援体制整備事業の実施

複合的な課題を抱える区民への包括的支援を目的に、相談・社会参加・地域づくりの支援を一体化した港区重層的支援体制整備事業を、令和6年度の試行を経て令和7年度から開始しています。

(1) 多機関協働事業＜重層的プラン検討会議・支援会議＞

(令和7年度)

項目		件数	項目		回・件数
相談受付	実件数	25	重層的プラン 検討会議 (本人同意あり)	開催回数	6
	延件数	73		協議した実件数	3
相談方法	訪問	8		終結件数	3
	来所	7	支援会議 (本人同意なし)	開催回数	12
	電話	49		協議した実件数	11
	その他	9		終結件数	3
			関係機関連絡件数		656



アウトリーチ等を通じた継続的支援事業のチラシ

(2) アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

(令和7年度)

項目			項目		
件数			回・件数		
相談受付	実件数	14	重層的プラン検討会議回数	0	
	延件数	49		7	
相談方法	訪問	19	支援対応実件数	2	
	来所	13		262	
	電話	182	関係機関連絡件数		
	その他	48			

(3) 参加支援事業 (令和7年度)

参加支援事業は、プラン検討会議において対象案件がなかったため実績はありませんでした。

なお、令和6年度に引き続き地域の社会資源等を調査・把握し、受け皿リストを作成しました。

リストの項目	件数
サロン、交流の場、ボランティア、NPO等	210



(4) 関係機関に対する各事業の周知や説明・研修等の実施

各種連絡会への参加を通じて関係部署へ事業を周知しました。また、理解促進・連携強化・基礎知識向上を目的に、港区福祉関係機関等連絡会や研修会を開催しました。

事例紹介

【重層的支援プラン検討会議】

8050世帯で支援拒否があり、家賃滞納により退去の危機にある事例。この会議において課題を整理し、在宅継続は困難との認識を関係機関で共有した。本人らの理解を得ながら施設入所を中心とした支援方針に統一し、役割分担のもと支援を展開した。その結果、母子それぞれに適した施設へ入所し、子は就労移行支援の利用を開始した事例。

【支援会議】

母（難病）と父・子の世帯で、父の過重負担に起因する虐待が生じている複合課題事例。支援会議により高齢・障害・児童等の多機関で世帯全体の課題を整理し、養育環境の安定と母の意思決定支援（ACP）を軸とした支援方針を共有した。また、虐待発生時の情報共有ルールや役割分担を明確化し、迅速な対応体制を整備した。その結果、多機関の連携による継続的支援が可能となり、世帯全体を支える体制が強化された事例。

【アウトリーチ等を通じた継続的支援事業】

50代单身男性で生活機能の低下が疑われるも支援未接続で、民生委員の相談を契機に関与を開始した事例。衛生面の悪化や引きこもり傾向が見られるが、本人は支援に消極的であった。アウトリーチにより定期訪問を継続し、無理のない関係構築を実施した。訪問を重ねる中で徐々に信頼関係が形成されつつある。今後は関係性を基盤にニーズ把握と社会参加につなげていく事例。

9 港区版ACPシートの作成・周知啓発

効果的な情報発信

区ではACP（アドバンス・ケア・プランニング）を普及啓発するため、港区版ACPシートを作成し、令和7年10月1日より配布を開始しました。

<ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは>

最期まで自分らしく暮らすために、自分が希望する医療や介護をどのように受けたいか、ご家族や、医療の担当者とあらかじめ話し合い、共有する取組のことです。愛称は「人生会議」です。

<港区版ACPシートとは>

希望する医療や介護について書き留め、自分の希望を家族や医療・介護の担当者等と共有するほか、救急医療情報キットに入れる、自宅の見つけてもらいやすい場所に保管する、外出時に持ち運ぶ等、救急搬送時に見つけてもらいやすいよう保管することを推奨しています。

【項目】

- ・生きていくうえで大切にしたいこと
- ・判断能力が低下したときの希望
- ・介護や医療が必要になったときの希望
- ・私のリビング・ウィル（事前指示書）

ACPシート

生きていくうえで大切にしたいこと

●今後生きていくうえで大切にしたいことを考えてみましょう。

☐好きなことができること
 ☐身の回りのことが自分でできること
☐家族や大切な人との時間
 ☐仕事や社会的な役割が続けられること
☐家族の負担にならないこと
 ☐痛みや苦しみが少ないこと
☐その他（ ）

判断能力が低下したときの希望

☐自分で意思決定や意思表明ができなくなった場合は、今後のことについて下記の本人から意見を聞いてほしい
☐任意後見契約をしている
☐社会福祉協議会の福祉サービス利用援助事業（ ）利用している（ ）利用しない（ ）
☐成年後見制度を利用したい

介護や医療が必要になったときの希望

●介護が必要になったときの希望

☐なるべく自宅で過ごしたい
 ☐施設や病院に入所・入居したい
☐家族・親類などの判断にまかせたい
 ☐その他（ ）

●介護してくれる人に伝えたいこと

☐在宅
 ☐施設
 ☐病院
 ☐その他（ ）

●終末期に過ごしたい場所

☐自宅
 ☐施設
 ☐病院
 ☐その他（ ）

※ACPシートは法的効力を持つものではありません。

港区

ACPシート

私のリビング・ウィル（事前指示書）

私は、病気や事故などにより、意識喪失や意思が不十分、判断能力などの状態が見込まれる状態となった場合、延命処置について以下のとおりの内容を希望します。

☐できる限りの延命処置を希望する
☐以下の選択した延命処置を希望する

●口から食事が出来ないとき

☐末期段階からの点滴（水分補給が中心）
☐中心静脈栄養（カテーテルからの高カロリー液）
☐経鼻経管による栄養補給
☐胃ろうによる栄養補給

●心臓が止まったとき

☐心臓マッサージ（蘇生処置）
☐AED（電気ショック）の使用

●呼吸が止まったとき

☐マスク/バッグを使った手動による呼吸補助
☐経管挿入や気管切開をした人工呼吸器の使用

☐延命処置を希望しない
☐痛みや苦痛はできるだけ抑えてほしい
☐ある程度痛みがあっても、できるだけ自然な状態で過ごしたい

●その他の希望

記入日 年 月 日（ ）
 本人署名
 同意者署名（家族など）（ ）
 ※医師等に内容を照会する場合は、あらかじめ3日間を待って連絡してください。
 ※記入と署名が揃った「リビング・ウィル」を含むACPシートは3日間待たずに、家族や医療、かかりつけ医などに渡すことができます。記入後に本人が延命処置情報キットに入替えます。
 ※同意者はリビング・ウィル記載後に同意した方です。同意者がいる場合にのみ記入してください。

港区

<配布について>

配布方法	配布場所
港区版エンディングノートの中に港区版ACPシートに該当するページを含めています。	終活相談窓口（港区社会福祉協議会内）、高齢者支援課、各地区総合支所区民課保健福祉係、各地区高齢者相談センター、各地区いきいきプラザ、ラクっちゃ 等
救急医療情報キットの申込者に港区版ACPシートを併せて配布しています。	各地区総合支所区民課保健福祉係、各地区高齢者相談センター、各地区いきいきプラザ、芝の家
区ホームページにPDFデータ及びエクセルデータで港区版ACPシートを掲載しています。	区ホームページ

<周知啓発について>

○区ホームページ上に新たにページを作成

ACP及び港区版ACPシートを周知するため、区ホームページに新たにACPに関するページを作成しました。ACPに関する説明や、港区版ACPシートのデータを掲載したほか、厚生労働省や東京都の関連ページへのリンクも掲載しています。

○区民公開講座の開催

令和7年度第3回区民公開講座にて、ACPをテーマとして医師による講演及びカードゲーム（もしバナゲーム）によりACPへの理解を深め、身近に感じてもらえるような講座を実施しました。



10 普及啓発

効果的な情報発信

(1) 区民公開講座

港区ならではの地域包括ケアの取組について、区民等を対象に、区民公開講座を開催しました。

第1回	日時	令和7年9月3日（水）14時～16時
	会場	新橋区民協働スペース
	参加者	21人
	テーマ	介護保険の利用術～介護保険サービスを上手に利用するために～
	プログラム	・ 講演1「介護保険の概要」 講師：岩城澄恵（高輪地区高齢者相談センター） ・ 講演2「ケアマネジャーやヘルパーの役割とは」 講師：一井圭（アイム介護福祉支援センター） ・ 質疑応答
	アンケートの意見	・ 基本の「き」について、お話が聞けてよかった。 ・ 区民公開講座に初参加だったが、機会があればまた参加したい。 ・ 現実的なことが聞けてよかった。 ・ 介護予防総合センターが、芝浦港南地区以外にもあるとありがたい。

令和7年度第1回
区民公開講座の様子



令和7年度第1回
区民公開講座のチラシ



第2回	日時	令和7年11月20日（木）14時～16時
	会場	麻布区民協働スペース
	参加者	11人
	テーマ	知っておきたい！在宅療養のこと～住み慣れた自宅で暮らし続けるために～
	プログラム	・講演1「訪問医師とは」 講師：菅野道貴（東京都港区医師会） ・講演2「歯科訪問診療の実際」 講師：西辻直之（東京都港区芝歯科医師会） ・講演3「訪問薬剤師とは」 講師：嶋野仁（東京都港区薬剤師会） ・質疑応答 ・情報提供「港区在宅療養相談センターのご紹介」
	アンケートの意見	・訪問医療が、包括的に理解できた。 ・とても詳しく説明してくれたので、参考になった。 ・説明が詳しくよくわかった。金額等も治療も健常な時がベストだとわかった。 ・住み慣れた我が家で暮らすには、様々な公的サービスと早めにつながっておくべきだと改めて認識できた。

令和7年度第2回
区民公開講座の様子



令和7年度第2回
区民公開講座のチラシ

令和7年度 第2回 区民公開講座

知っておきたい！
在宅療養のこと
住み慣れた自宅で
暮らし続けるために

講演

- ・「訪問医師とは」
講師：東京都港区医師会 会長 菅野 道貴
- ・「歯科訪問診療の実際」
講師：東京都港区芝歯科医師会 会長 西辻 直之
- ・「訪問薬剤師とは」
講師：東京都港区薬剤師会 理事 嶋野 仁

相談会
講演終了後に港区在宅療養相談センターによる在宅療養に関する相談を行います！
※15分程度、人数が定まります

24時間
（事前申込制） 麻布区民協働スペース
地区六本木5-16-46
協働利用室3階

テーマに
関心のある方
「在宅」
講演終了後11時～12時 参加費無料（先着100名）
3階出口から徒歩7分
講演終了後12時～13時 参加費無料（先着100名）
3階出口から徒歩7分

申込期間
令和7年10月15日（水）～11月14日（金）

申込みコールへお電話ください
その際、お名前、ご連絡先をお知らせください
みなとコール 03-5572-2710
受付時間：09～17:00
※お電話は15:00～17:00
※お電話またはお持ち込みの人は、10月31日（金）までで
受付が終了となります。

お電話予約の手続き

お申し込み
お申し込み
お申し込み

主催 | 港区 保健福祉課 保健福祉総合調整係 03-3578-2329

第3回	日時	令和8年3月18日（木）14時～16時
	会場	芝浦区民協働スペース
	参加者	8人
	テーマ	自らが望む生き方・医療を大切な人と話し合う人生会議（ACP）を始めませんか
	プログラム	・講演「実例から学ぶACP～自分らしい生き方を選択するために～」 講師：安田 淳（東京都港区医師会） ・質疑応答 ・ゲーム体験「もしバナゲームを体験してみよう」 ・情報提供「港区在宅療養相談センターのご紹介」
	アンケート の意見	・色々な延命処置を知ることができた。 ・何を大切にしたいかがわかった気がした。 ・初めてもしバナゲームを体験した。講演と併せて参考になった。

令和7年度第3回
区民公開講座の様子



令和7年度第3回
区民公開講座のチラシ

令和7年度 第3回 区民公開講座

自らが望む生き方・医療を大切な人と話し合う人生会議（ACP）を始めませんか

3/18 14:00～16:00 参加費 無料

講演 14:00～16:00
 ●「実例から学ぶACP
 ～自分らしい生き方を選択するために～」
 講師 安田 淳（東京都港区医師会 常務理事）

●「もしバナゲームを体験してみよう」

定員 12人程度（事前申込制） 対象 誰でも参加可
 会場 芝浦区民協働スペース
 芝浦1-16-1 2F（芝浦1-16-1 2F）
 ※会場内、芝浦1-16-1 2F（芝浦1-16-1 2F）
 ※会場内、芝浦1-16-1 2F（芝浦1-16-1 2F）
 ※会場内、芝浦1-16-1 2F（芝浦1-16-1 2F）

申込み みなとコールへお電話ください
 みなとコール 03-5472-3710
 ※受付時間：平日10:00～17:00
 ※お申し込みは3月17日（金）まで
 ※お申し込みは3月17日（金）まで

申込先 申込みセンターへお電話ください
 申込みセンター 03-3578-2323

申込先 申込みセンターへお電話ください
 申込みセンター 03-3578-2323

(2) 医療機関・介護事業者検索システム

区民やその家族、支援者等に向けて、区内の医療機関等や介護サービス事業者の情報を「港区医療機関・介護事業者検索システム」に掲載しています。

年1回、一斉調査を実施し、掲載情報を更新しています。また、随時、新規掲載や掲載内容の変更、閉業等に伴う削除の希望に対応しています。

○医療機関掲載件数（令和8年3月末日時点）

	病院・診療所	歯科		薬局	全体
区内医療機関数	887件	609件		211件	1,707件
掲載件数 (割合)	517件 (59%)	380件 (62%)		145件 (68%)	1,042件 (61%)
公開件数の内、 三師会員数 (割合)	医師会員 281件 (75%)	芝歯科医師会員 124件 (78%)	麻布赤坂歯科医師会員 103件 (72%)	薬剤師会員 105件 (84%)	613件 (76%)

○運用

新規の掲載や掲載内容の変更、閉業等に伴う削除の希望があった場合は、随時掲載情報を更新しました。

また、関係者専用ページには厚生労働省や東京都からの通知、港区からのお知らせを掲載しました。

<お知らせ掲載例>

- ・医療ソーシャルワーカー業務指針の改正について（厚生労働省）
- ・明日から使える医療的ケア児の支援ガイド（東京都）
- ・港区地域包括ケア研修会開催のお知らせ（保健福祉課）
- ・認知症ケアセミナー「～社会参加から認知症予防を考える～」の開催のお知らせ（高齢者支援課）

(3) みなと医療BOOK

地域の医療機関や薬局の案内に加え、区の地域包括ケア推進の取組や在宅医療、感染症予防、母子保健、障害者、高齢者、防災等の情報を掲載した冊子です。

港区医師会と協定を締結し、港区医師会主動のもと合同で作成し、2026年版を令和8年1月に発行しました。



(4) 広報媒体

①区ホームページ

地域包括ケア

港区在宅療養相談センター

- 「港区在宅療養相談センター」のご案内

在宅療養後方支援病床

- 「在宅療養後方支援

地域包括支援推進協議会

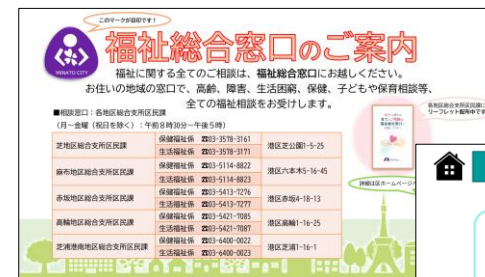
- 令和4年度第1回港区
- 令和4年度第2回港区
- 令和5年度第1回港区
- 令和5年度第2回港区
- 令和6年度第1回港区

地域包括ケアの取組を区のホームページで発信しました。

- 港区在宅療養相談センター
- みなと在宅療養サポート入院
(港区在宅療養後方支援病床)
- 港区地域包括支援推進協議会

②デジタルサイネージ

総合支所をはじめ区内50箇所の施設に設置しているデジタルサイネージを活用し、地域包括ケアの取組を発信しました。



▲福祉総合窓口

▼港区在宅療養相談センター

